

特集 1

眼科の手術実績について

眼科医師 森 祥平



眼科 医師 森 祥平

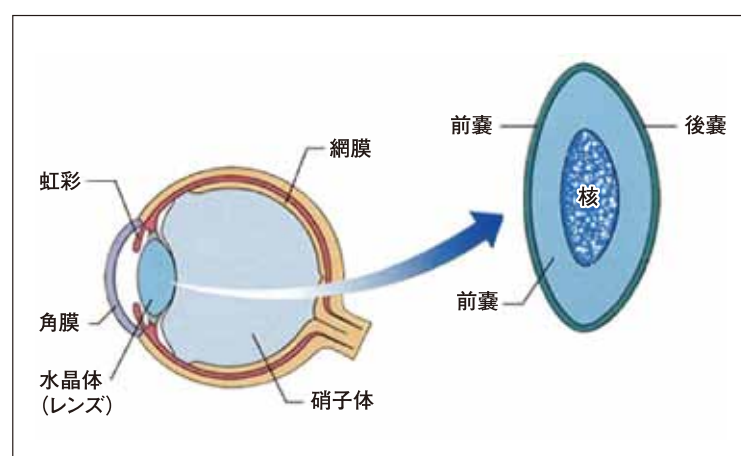
■眼科の手術実績について

当科では白内障手術が全手術の九割以上を占めていますが、週約八件のペースで手術を行っています。

白内障とは、カメラのレンズに相当する水晶体が加齢などの原因により濁り、視力が低下してくる病気です。かすみ以外にもだぶ

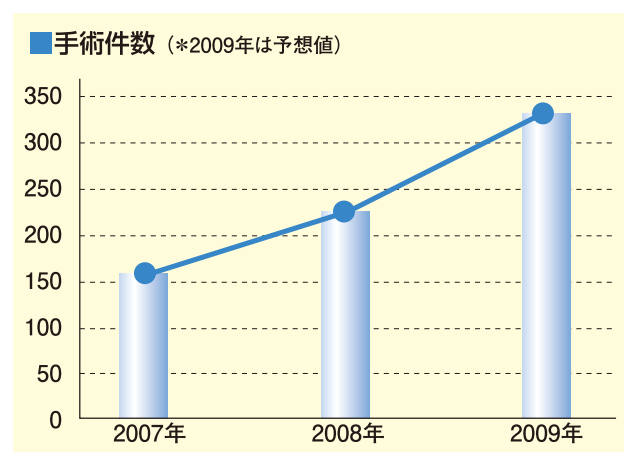
つて見えたり眩しさを感じることもあります。糖尿病があると白内障が生じやすく、白内障の発見をきっかけに糖尿病が見つかることもあります。

手術を行うタイミングですが、日常生活に不便を感じるように



なつて、かつ手術のリスクなどをよく聞いて検討した上で決めてもらうようにしています。

白内障以外にも緑内障や翼状片、腫瘍の切除なども行っています。その他、眼の中(硝子体や網膜)の処置が必要な疾患は適宜札幌や旭川などの病院へ紹介もしています。

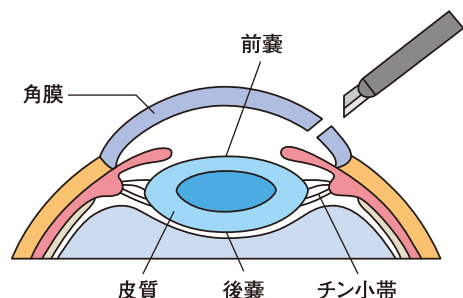


■白内障手術について

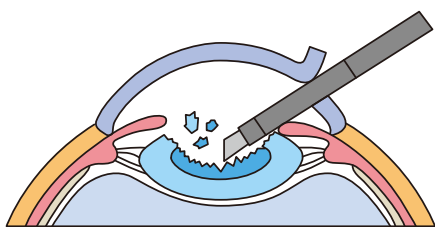
現在の白内障手術は約三ミリメートルほどの切開創から手術を行う超音波水晶体乳化吸引術が主流です。白内障が進行し、超音波での破碎が困難な場合は水晶体を丸ごと摘出する水晶体囊外摘出術が行われる場合があります。麻酔は点眼麻酔で、ほとんど痛みはありません。

■手術方法

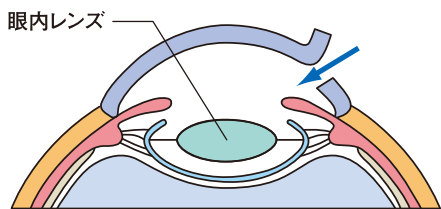
①角膜、もしくは強膜から超音波の出る機械を入れます。



②前囊を一部除去し、水晶体を超音波で碎きながら吸引します。



③同じ傷口から眼内レンズを挿入し、囊内に固定します。



■手術後

術翌日から眼帯を外してもらいますが、約一週間は洗顔や洗髪は控えてもらうようにしています。その他、日常生活では特に制限はありません。

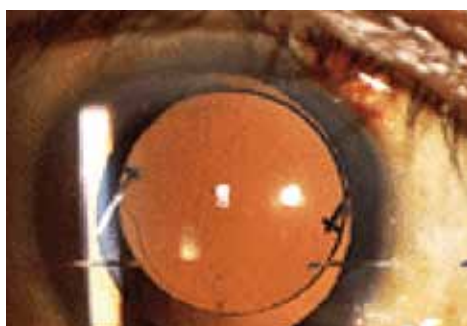
眼内レンズにはピント調節の機能がないために、遠方もしくは近方を見る際には眼鏡をかける必要があることが多いです。

入院期間は片眼の場合二泊三日、両眼の場合は四泊五日程度の方がほとんどですが、退院後も定期的な通院は必要です。



水晶体が黄白色に濁っています

■透明な眼内レンズが見えます



■今後の展望

近年、白内障手術のみならず硝子体手術の技術の進歩にも目覚ましいものがあります。また、光干渉層計(OCT)の発達により、特に網膜疾患の診断・治療が急速に進歩しています。これまで不治の病とされていた加齢黄斑変性症(網膜の中心にあり一番感度の良い黄斑部が障害され視力が低下する病気)が治癒可能となる日もそう遠くはないかもしれません。

人間は情報の約八割を視覚か

ら得ると言われています。これから高齢化社会を迎え、白内障や緑内障の患者数も大きく増えることが予想されています。人間が生活して行く上で欠くことのない視覚に携わる科として、これからも最新・最良の医療を皆様に提供していきたいと思っています。



眼科の手術中